

富山高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	工業熱力学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0126			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	『わかりやすい熱力学（第3版）』，森北出版株式会社，一色尚次・北山直方共著						
担当教員	経田 僚昭						
到達目標							
近年の技術開発には、ただ性能を追求するのではなく如何に持続可能な社会を実現するか、地球環境を意識したものとしての視点がおかれている。熱力学を「エネルギー問題の基礎的考え方を養う学問」として捉え、熱力学の第一法則、第二法則を中心に抗議する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	熱と機械仕事との関係が説明できる			熱と機械仕事との関係がわかる		熱と機械仕事との関係について理解が不十分	
評価項目2	現実の熱機関サイクルについて独自の視点で説明できる			現実の熱機関サイクルについて説明できる		現実の熱機関サイクルについて理解が不十分	
評価項目3	気体の状態変化について計算し、実機設計に応用できる			気体の状態変化について計算できる		気体の状態変化について計算が困難	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	熱と機械仕事との関係，現実の熱機関サイクルの不可逆性を学ぶ。						
授業の進め方・方法	筆記試験，課題を課す。配分は試験 7 0 %，小テストと課題が 3 0 %，総合評価 6 0 %以上が認定						
注意点	3 機関に関する科目（その三） 二 熱力学 (1)熱及びエネルギー (2)理想気体の性質 (3)熱の伝達 (4)燃料の燃焼						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 基本事項		シラバスの説明 熱力学で取り扱う物理法則，単位がわかる		
		2週	熱力学で取り扱う物理量(1)		熱力学で取り扱う物理量と単位がわかる		
		3週	熱力学で取り扱う物理量(2)		熱力学で取り扱う物理量の単位変換が計算できる		
		4週	熱力学の第一法則(1)		熱と仕事との関係がわかる		
		5週	熱力学の第一法則(2)		熱と仕事との関係が説明できる		
		6週	熱力学の第一法則の基礎式(1)		エネルギー保存則が理解出来る		
		7週	熱力学の第一法則の基礎式(2)		エネルギー保存則を解くことができる		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	気体の状態方程式		気体の状態方程式が理解出来る		
		10週	気体の状態変化の計算(1)		気体の状態方程式が計算出来る		
		11週	気体の状態変化の計算(2)		実機における気体の状態方程式が計算出来る		
		12週	気体の状態変化の計算(3)		実機における気体の状態方程式が計算出来る		
		13週	サイクルと効率		熱機関のサイクルとその熱効率が計算できる		
		14週	ヒートポンプと成績係数		ヒートポンプのサイクルとその成績係数が計算できる		
		15週	演習 成績評価・確認		これまでのまとめ		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	210	15	30	30	15	0	300
基礎的能力	70	5	10	10	5	0	100
専門的能力	70	5	10	10	5	0	100
分野横断的能力	70	5	10	10	5	0	100